

図6 肝細胞の風船化 (ballooning)。風船化した肝細胞の一部には細胞質内に Mallory body を認める (矢印)。

肉芽腫は、アレルギー性機序による場合にみられ、薬物に対する肝網内系の免疫応答の結果として形成される。肉芽腫にはリンパ球、組織球、好中球、好酸球などが構成成分である炎症性肉芽腫 (図7-組織画像) と、リンパ球、活性化マクロファージが構成成分である類上皮性肉芽腫があり、ともに、多核巨細胞を伴うことがある。他の肉芽腫形成性の病変 (サルコードーシス、結核など) との鑑別が困難な場合もある。

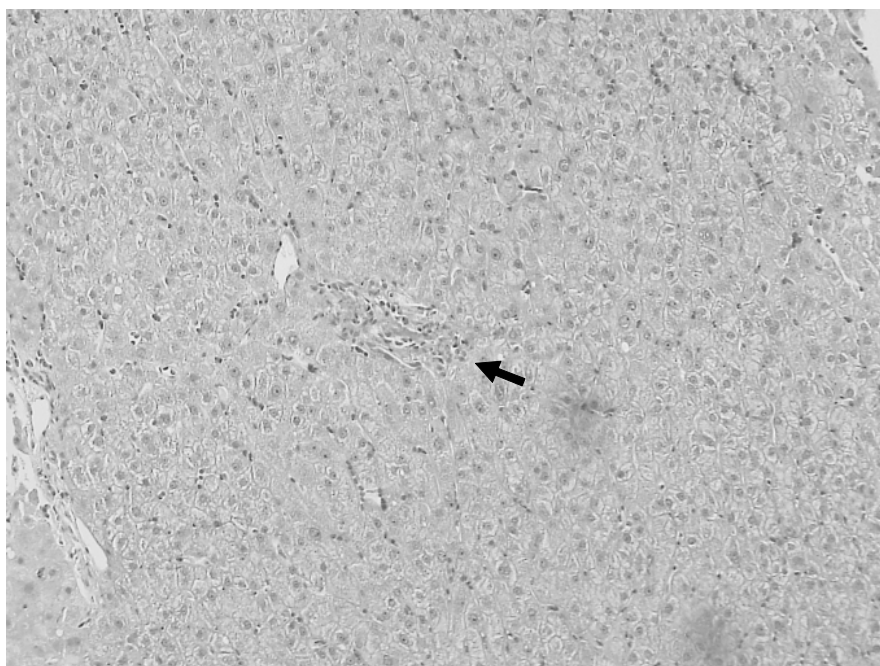


図7 炎症性肉芽腫 (矢印)。